

2022 年度第 1 四半期決算説明会における主要な質疑応答

質問	回答
<p>Q1 : 2022 年度業績予想について、昨今の円安の状況を鑑みると事業利益の上方修正額 30 億円はやや消極的ではないでしょうか。 ※5月公表：530 億円 → 8月公表：560 億円</p>	<p>A1 : 円安による増益効果は大きいものの、中国向け油圧機器需要の減少に加え、価格転嫁しきれない原材料価格や物流費の上昇分が事業利益を圧迫しており、30 億円の上方修正に留まりました。</p>
<p>Q2 : 航空宇宙事業において、2022 年度第 1 四半期ではボーイング社向け 787 型機の売上機数が 0 でしたが、第 2 四半期以降の見通しを教えてください。</p>	<p>A2 : ボーイング社は 2022 年 8 月 10 日より航空会社への 787 型機出荷を再開しています。当社の売上計上は下期以降を想定していますが、詳細に関するコメントは控えます。</p>
<p>Q3 : 汎用エンジン事業の 2022 年度業績予想売上計画を下方修正した理由を教えてください。 ※5月発表：900 億円 → 8月発表：830 億円</p>	<p>A3 : 米国での好景気に伴う人員不足や各種部品不足が製品供給に影響を及ぼしているためです。</p>
<p>Q4 : 油圧機器事業について、中国建機市場の減速は 2022 年度事業利益計画にどの程度の影響を与えますか。</p>	<p>A4 : 事業利益において、5 月公表時の予想から中国建機需要低迷の影響を追加で▲30～▲40 億円程度織り込んでいます。</p>
<p>Q5 : モーターサイクル&エンジンにおいて、コロナ禍により急拡大した市場がピークアウトしていく時期をどのように予想していますか。</p>	<p>A5 : 需要は依然として好調であり、現時点で減退の兆候は見られないため、ピークアウトの時期は想定できていません。 2022 年度は、高需要により低水準となっている市中在庫を充足させるため、着実な生産・卸売による増収を見込んでいます。</p>
<p>Q6 : モーターサイクル&エンジンにおいて、2022 年度の四輪車・PWC 事業の売上収益が、2021 年度実績を大幅に上回る計画としている理由を教えてください。 ※2021 年度売上実績：1,088 億円 2022 年度売上計画：1,490 億円</p>	<p>A6 : 主な要因は、販売台数の増加や原材料費・物流費等の上昇に応じた販売価格の変更、為替前提レート変更の影響です。なお、四輪車の売上増には、2022 年 6 月に投入した新製品「TERYX KRX4 1000※」の拡販効果も見込んでいます。 ※詳細は決算説明資料 p.36 を参照ください</p>

2022 年度第 1 四半期決算説明会における主要な質疑応答

質問	回答
<p>Q7 :</p> <p>第 1 四半期における四輪車・PWC 事業の販売台数は前年同期比で減少していますが、通期の売上収益は大幅増収の計画になっています。計画達成の確度を教えてください。</p> <p>※2021 年度第 1 四半期 販売台数：17 千台 2022 年度第 1 四半期 販売台数：16 千台</p> <p>※2021 年度通期 売上収益：1,088 億円 2022 年度通期 売上収益：1,490 億円</p>	<p>A7 :</p> <p>当第 1 四半期は部品調達難により十分な生産ができず、販売台数が伸び悩みました。しかしながら、下期以降は現在の部品調達難がやや解消すると見込んでいるため、通期計画は達成可能であると考えています。</p>